

令和2年度
事業報告書

社会福祉法人 札幌厚生会
救護施設 札幌市あけぼの荘

令和2年度事業報告書 目次

総括	1
I. 利用者支援の充実	3
1. 自己実現と個別支援体制の充実	
2. 人権を尊重した支援の推進	
3. 包括的基幹相談窓口の体制構築と循環型施設機能の推進、生活困窮者自立支援機能の推進	
4. 利用者主体の生活支援	
5. 生きがい活動の充実	
6. 作業活動の充実	
7. 地域活動の推進	
8. ホームレス緊急入所事業の推進	
9. 一時入所受入れの推進	
II. 健康支援と感染予防	8
1. 健康状態の把握と健康相談の充実	
2. 健康診断の実施	
3. 回診の実施	
4. 服薬の管理と誤薬防止	
5. 怪我（転倒）の防止と誤嚥予防	
6. 感染症の予防	
7. 病院受診・通院・入退院の対応	
8. 緊急時の対応	
別紙 月別通院状況	
III. 食の向上と栄養管理	11
1. 栄養の管理	
2. 特別食の対応	
3. 豊かな食事の提供と給食環境の改善	
4. 非常時の対応	
5. 食品衛生と調理従事者の衛生管理の徹底	
6. 給食単価と平均栄養所要量	
別紙 給食状況調	
IV. 施設の安定的な経営と機能強化	15
1. 安定的経営に向けた取り組み	
2. 運営体制の強化	
3. 職員の専門性と処遇の向上	
4. 苦情解決に向けた取り組み	
5. 地域との連携	
6. 広報活動の充実と情報公開の取り組み	
V. 施設の安全管理と環境整備	17
1. 施設の防災管理	
2. 施設設備の修繕・保守・点検	
3. 施設内の清掃・美化	
別表	18
別表1 入所状況・ 別表2 職員配置状況	

令和2年度事業報告

■ 総 括

はじめに

一昨年度後半から全世界的に猛威をふるい続け、現在も感染拡大し続けている新型コロナウイルスの影響にて、令和2年度は事業計画の各種項目においてことごとく縮小もしくは中止せざるを得ない反面、感染対応に終始した一年間であった。常に感染予防の観点に立った判断に努めながらも、隔離、外出制限などを最小限にしながら、微妙なバランスを保つ模索をしてきた。国の緊急施策で実施に至った施設近隣アパートの活用や、面会室や会議室などの柔軟な転用により隔離スペースを確保しながら新規入所のニーズに応じてきた。更にコロナ対策として、疑感染者が出た場合に隔離支援が出来るよう、静養室の一部整備や、職員向けに感染対策に関する研修会を実施した。年度当初には感染疑いのケースが数件もあったものの、今のところ幸いにして利用者、職員及び関係各位について感染者がゼロで推移してきている。

数年来続いている入所実績の低迷については未だ改善せず、大きな要因として捉えている「居室環境の改善」について、一部自費により改修工事を進めてきたことに加え、引き続き札幌市との協議もすすめており、合意形成にむけて一步前進してきている。しかし外部との接点を最小限にしてきたことから、多くの営業活動や「法人基幹相談窓口」としての機能を展開していくことに至っておらず次年度以降への課題としている。

■ 重点目標

1. 利用者の確保

今年度については、行動歴、感染歴が不明な中、いかに感染経路を遮断しながらも柔軟に新規入所を受け入れできるかを考慮し、薄氷を踏む思いで進めてきた。また施設内の環境改善が入所促進につながるとの思いから、一部居室の環境改善、作業室のサロン化（自販機設置、Wi-Fi環境整備、ソファ、観葉植物の配置等）を行った。しかしながら一昨年度程度の入所人員で推移し利用者増にはつながらなかった。

2. 循環型施設としての機能強化

長期利用の方々の高齢化が著しいため、段階的に高齢者施設への移行を行ってきた。コロナ禍の折、移行のタイミングを見合わせたケースもあったが着実に実績を重ねてきた。「一時入所」の希望者が増加傾向にあり、緊急的な居室化対応など柔軟な受け入れを行うため検討を重ね実施してきた。

3. 「生活支援記録システム」の活用

利用者支援が多様化する中、限られた時間の中で効率化を図るため「生活支援記録システム」を導入してきており、今年度については医務的記録及びヒヤリハット事象の記録、個別支援計画の一部の記録について順次活用幅を広げてきた。1システムにより網羅的に情報を確認出来るようになったことは大きな成果となった。

4. 「話楽（わらく）」の開設による個別健康相談の実施

昨年度末から流行し続けている新型コロナウイルス対策に終始した1年であり、職員、利用者様共に感染予防に関する意識啓発、各種物品の調達、必要設備の設置等を行った。年度後半より事業計画にうたった「話楽（わらく・利用者様への傾聴）」を開始することが出来た。「話楽」と同時に万が一の際の医療行為に関する意向調査を行った。

5. 嗜好品の提供の見直し

健康で生きがいある毎日を送っていただくため、安全で満足度の高い食事の提供を行っているところであるが、今年度は食事に加え嗜好品の提供についても見直しを行った。適切な提供回数と個々の身体状況等に合わせた内容へと改善した。

6. 各種マニュアルの整備

複雑化していく業務に対応するために、段階的にマニュアルの整備を進めているところであるが、当初の目標値の達成までには至らず次年度以降に引き続き課題を残した。

7. 消防計画の見直しと防災訓練の見直し

コロナ禍においては、防災訓練も縮小化を余儀なくされ、新たな訓練はもとより従来どおりの訓練すら実施することが出来なかった。その代わりに危機管理の観点からコロナ感染を想定したゾーニングやPPE（個人防護具）の着脱等の研修を行った。次年度以降においてコロナの影響を考慮した上で訓練の見直しを行っていく。

I. 利用者支援の充実

生活支援においては、個人を尊重し、自己決定と持てる能力の活用を基本とした個別支援計画に基づき支援を実践した。

1. 自己実現と個別支援体制の充実

① 個別支援計画実施体制の充実

ア. 希望・要望の聞き取り調査の実施

イ. ケース会議の開催

- ・ケース会議において、個々が求めている生活のイメージを共有化し、担当介護職員によるアセスメントを基に個別支援計画を作成した。さらに、実践された支援について定期的にモニタリングを行い、支援内容の見直しを行った。

延べ開催回数 79回

2. 人権を尊重した支援の推進

① 人権擁護検討委員会の開催

- ・人権擁護を推進する中で、新たに施設利用を希望する方や現在入所されている利用者様から求められる支援及び施設生活についての課題が見えてきたため、支援方法等を見直す機会としての活動を次年度に向けた課題とした。利用者支援については、基本とするマニュアル『職員行動指針』に基づく実践に努めた。

委員会開催 2回

3. 包括的基幹相談窓口の体制構築と循環型施設機能の推進、生活困窮者自立支援機能の推進

① 札幌市を対象とした「基幹相談窓口」としての機能

- ・札幌市内各区の保護課への訪問営業を行ったが、まだまだ定着には至っておらず次年度以降へ課題を残した。

② 施設と地域社会資源との連携強化

- ・近年、医療機関や他の福祉事業所等との連携を図るべく、生活相談員による定期的訪問活動を実施していたが、新型コロナウイルス感染症により最小限とした。その中でも新規入所の面談の際には関係機関を訪問し連携を図った。また他施設や地域での生活を望まれた方、又は施設替えにより適切な支援を受けられると判断した方には積極的に退所に向けた支援を行った。

③ 生活困窮者自立支援事業の実施（地域公益的事業）

- ・認定就労訓練事業（中間的就労）として、保護自立支援課の依頼により地域の生活保護受給者1名を受け入れ、施設内清掃業務を通じて、就労に向けて必要な訓練を実施した。（訓練期間約3ヶ月）訓練期間中には昼食を提供した。

4. 利用者主体の生活支援

① 支援体制の改善

- ・福祉見聞録導入による情報管理体制の充実
- ・通年週3回の入浴日の設定を検討し、毎週水曜日をシャワー浴の日として設定した。

② 意見反映

ア. 意見交換会（隔月実施）

イ. 全体集会

新型コロナウイルス感染症により、全館放送にて実施。廊下に放送内容の掲示を行った。

-10月、1月、3月のみ通常通り、集会室に集まり実施した。

③自主的活動の促進

- ・各種体操への参加（毎日実施～ラジオ体操、リズム体操）
- ・カラオケ愛好会活動への支援（新型コロナウイルス感染症により中止）
- ・職員が同行する個別外出支援

買い物	食事	図書館	家族との交流	墓参り	合計
5回	0回	0回	0回	1回	6回

④ 家族等との交流支援

ア. 家族等との交流状況

新型コロナウイルス感染症により、面会においては家族のみ時間制限の中実施。外出・外泊においては、感染予防の為禁止とさせていただいた。

・面会の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
面会者数	3	0	0	3	2	4
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
面会者数	2	1	2	1	1	2

*延べ面会者数 21名

・外出の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
外出者数	0	0	0	0	0	0
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外出者数	0	0	0	0	0	0

*延べ外出者数 0名

・外泊の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
外泊者数	0	0	0	0	0	0
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外泊者数	0	0	0	0	0	0

*延べ外泊者数 0名

イ. 機関紙「みちしば」の家族様への送付

- ・発行回数：年2回
- ・送付部数：57部／1回

5. 生きがい活動の充実

① クラブ活動の実施

新型コロナウイルス感染症により、ボランティアの受入れを中止とした。

クラブ名	実施回数	参加延人数	実施内容
書道クラブ	10回	97人	季節や行事に合わせた文字や好きな言葉を書き、日常的に掲示した。また、利用者様全体に呼びかけ七夕の短冊作りを行った。
自遊クラブ	10回	82人	お雛様、五月人形、七夕、クリスマス、正月等、季節の飾り付けの他、ぬり絵、歌と器楽の演奏、DVD放映等を行った。
手芸クラブ	19回	80人	1人1人の個性を生かし「出来る事」を主体として、刺し子、スクラッチアート、ボックス等の作品づくりを行った。

② レク活動の実施

ア. グループレクの実施

新型コロナウイルス感染症により、グループレクの実施は中止とした。

実施日	内 容	参加者	実施日	内 容	参加者
6月 4日	買い物レク1班	0名	9月 9日	動物園見学	0名
7月21日	買い物レク2班	0名	9月30日	食事会1班	0名
7月30日	買い物レク3班	0名	11月12日	食事会1班	0名
8月18日	カラオケレク	0名	11月19日	食事会2班	0名
8月20日	買い物レク4班	0名			

イ. 買物レクの実施（コロナ禍にあっても、利用者ニーズが高かった買い物については、予防・消毒を徹底した上で実施した。

・実施日 1班 7月16日 2班 7月28日 3班 8月 4日
4班 8月18日 5班 9月 9日 6班 9月15日

・行 先 しまむら苗穂店 アベイル苗穂店

・参加者 1班 4名 2班 4名 3班 4名 4班 4名 5班 3名
6班 3名 合計 22名

買物レクカスタム

・実施日 9月 8日
・行き先 施設内作業室
・参加者 36名

ウ. 宿泊旅行の実施

新型コロナウイルス感染症により、中止とした。

班編成	日 程	行先	内 容	参加人数
第1班	9月15日～16日	小 樽	新型コロナウイルス感染症により中止	0名
第2班	10月14日～15日	札 幌	新型コロナウイルス感染症により中止	0名
食事会	11月11日・17日	札 幌	新型コロナウイルス感染症により中止	0名

エ. その他施設行事

実施日	行事名	内 容	備考
4月 1日	新担当顔合わせ	新規居室メンバーと担当介護職員との顔合わせを行った。	
4月16日	合同カラオケ交流会	新型コロナウイルス感染症により中止	
5月13日	第58回開設記念	施設内にて利用者のみで実施した。	
8月 6日	夏祭り	施設内にて利用者のみで実施した。	
8月19日	物故者盂蘭盆会法要	新型コロナウイルス感染症により中止	
9月 4日	スポーツ交流会	新型コロナウイルス感染症により中止	
9月12日	敬老会	お祝い品を贈呈し、長寿のお祝いを利用者様と共にを行った。	

12月19日	もちつき	新型コロナウイルス感染症により中止	
12月24日	クリスマス会	クリスマス会食を行った。	
12月30日	年越し会食	年越しの会食を行った。	
1月21日	勉強会	福祉施設での新型コロナウイルス感染症に関するDVDで上映した。	
2月2日	節分の豆まき	年男、年女の方に施設内を回って頂き、豆まきを行った。	対象者 7名

オ. 外出やレクが中止される中、少しでも施設内が明るくなるよう定時にそれぞれ好きな音楽やDVDを流す試みを行った。

平日：14：00～1時間程度 音楽放送

休日：13：45～2時間程度 DVD映画放送（いずれもリクエストによる）

6. 作業活動の充実

① 作業実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施延べ日数 (日)	1	0	0	0	2	2	2	10	7	0	0	0	24
参加延べ人員 (人)	40	0	0	0	47	42	52	253	179	0	0	0	613
1日平均参加 人員 (人)	40	0	0	0	23	21	26	25	25	0	0	0	26
箸作業実績 (本)	10,200	0	0	0	4,290	4,950	4,950	15,000	49,950	0	0	0	89,340
箸作業収益金 (円)	8,160	0	0	0	3,432	3,960	3,960	12,000	39,960	0	0	0	71,472
その他作業 実績 (部)													
その他作業 収益金 (円)													
収益金総額 (円)	8,160	0	0	0	3,432	3,960	3,960	12,000	39,960	0	0	0	71,472

② 作業内容

- ・お弁当用箸セット製作作業

③ 作業工賃の支給

- ・偶数月に当該月の前2ヶ月分の作業参加回数を集計し、その出席回数と当該月の収益金を基礎とした計算により、作業賃金を個々に支給した。
- ・令和2年度作業収益金総額 71,472円

7. 地域活動の推進

いずれも新型コロナウイルス感染症予防により中止した。

- ①地域清掃の実施
- ②地域交流の実施
- ③施設訪問の受入れ

8. ホームレス緊急入所事業の推進

国の緊急的施策により、施設近隣のアパートを1室借り上げ、経路不明者の隔離対応場所として受け入れを行った。

ア. 月別入所者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	2	6

*平均入所日数 31.5日 最短 7日 最長 46日

イ. 年齢別入所者数

(内訳)	30歳未満	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
	0名	1名	1名	2名	0名	2名
	0%	16.6%	16.6%	33.3%	0%	33.3%

*平均年齢 55歳 最年少33歳 最高齢74歳

ウ. 月別退所者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
居宅保護	3	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	5
入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
その他	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1

9. 一時入所受入れの推進

ア. 一時入所利用者数（一般入所前の体験的入所は除く）12名

イ. 入所日数 延入所日数 171日 平均入所日数 14.3日

ウ. 退所先 居宅 2名 その他 2名 正式入所 1名

Ⅱ. 健康支援と感染予防

利用者様一人ひとりの安心と健康の保持、残存機能の維持を図りながら、嘱託医の指示の下、以下のことを行った。新型コロナの影響下の中感染症対策の徹底に努めた。

1. 健康状態の把握と健康相談の充実

日常の小さな変化や悩みのサインを見逃さないよう観察を密に行い、利用者様の主体性や意思を尊重した相談・支援に努めた。今年度から新たな健康相談支援として「話楽」を取り入れた。(新型コロナの影響を考慮し下半期からの実施とした)

① 「話楽」の実施

・誕生月に個別に悩みや不安に思うことの聞き取りを行った。 延べ人数 12名

② 延命意思確認の実施

・誕生月に年1回、延命希望の有無確認を行った。 実施人数 12名

生活支援記録システムを活用し、医務的記録を入力していくことで職員間の情報共有に努めた。

2. 健康診断の実施

① 定期検診

検診名	実施日	実施機関名	受診者	要精検者
胃 癌 検 診	4月 2日	北海道対がん協会	21名	1名
大 腸 癌 検 診	4月 2日	北海道対がん協会	62名	1名
胸 部 検 診	11月 2日	北海道対がん協会	47名	1名
子 宮 癌 検 診	3月18日	北海道対がん協会	7名	0名
乳 癌 検 診	3月18日	北海道対がん協会	7名	1名

※ 要精検者については、嘱託医の指示により再検査を実施した。

② 施設内健康チェック

ア. 体重・血圧測定の実施

・毎月 男性・女性別に1回測定実施

イ. 検血・検尿の実施(対象者のみ)

・3班に分け年2回実施

③ 入所時健診

必要に応じ適宜実施した。

④ 個別検査

嘱託医、主治医の指示を受け、胸部レントゲン・CT、頭部CT、心電図、胸部・頸部エコー、血液、尿検査を実施した。

3. 回診の実施

回診や通院を受診した。月別患者数は別紙のとおり。

4. 服薬の管理と誤薬防止

自己管理が難しい方(現在54名)については医務管理とし、食事後や就寝時に介護職員と連携し服薬確認を行った。

また自己管理が出来る方についても、定期的に残薬のチェックを行い服薬の安全に努めた。誤薬の発生を出来るだけ最小限にとどめるべくヒヤリハット委員会を通じ検証を行った。

5. 怪我(転倒)の防止と誤嚥予防

① 健康の維持

- ア. ラジオ体操、リズム体操、DVDによる機能体操の実施（身体機能・嚥下機能・認知機能）
 - ・毎日実施
 - ・リズム体操の内容を見直し、札幌市介護予防センター「スマイル体操」のDVDを採用した。
- イ. 歯科往診時に必要な方へ義歯装着方法や歯磨き方法等について指導した。又、義歯の不都合など介護職員と連絡を密にとりながら歯科治療につなげた。
 - ・適宜
- ウ. 昼食前に対象者向けに嚥下体操を行った。

※5月は新型コロナ対策として密にならないよう休みとした

嚥下体操月別実施回数及び参加者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実施回数	3回	0回	2回	11回	8回	7回
参加者数(延人数)	46名	0名	32名	181名	135名	123名
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実施回数	12回	10回	11回	8回	9回	5回
参加者数(延人数)	197名	135名	164名	131名	136名	174名

合計：86回 1,454名

6. 感染症の予防

- ア. インフルエンザ予防接種の実施
 - ・利用者様及び職員を対象に実施した。
- イ. 肺炎球菌ワクチンの実施
 - ・対象の一部利用者様に実施した。
- ウ. 手洗い・うがいの徹底
 - ・日常の手洗い・うがいの徹底のほか、通院の帰途後のうがい手洗いを徹底するなど、感染症の予防に努めた。
 - ・食堂、玄関、各階洗面所に手指消毒剤を設置し、消毒の徹底をした。
- エ. 除菌の徹底
 - ・施設内の除菌を全職員で実施した。(通年1日2回)
 - ・施設内の換気を全職員で実施した。(午前、午後の2回)
- オ. コロナウイルス対策の実施
 - ・体調管理(体温測定・風邪症状の有無)
 - ・隔離体制(緊急・一時入所者も含む)の見直し、マスク、アルコール消毒液等必要物品の調達
 - ・全職員のマスク着用、利用者様の外出制限
 - ・健康診断や通院時のマスク着用(職員・利用者)
 - ・食堂テーブル向かい合う中央にアクリル板を設置し1日1回消毒した。
 - ・発熱者が出た時の対策マニュアル作成
 - ・回診及び往診に来る医療者(他の入館者も同様)の出入口玄関は1か所とし入館前に検温・手指消毒の協力依頼した。
 - ・緊急事態宣言時の回診・往診の自粛にあたり医療機関へ連絡調整等した。

7. 病院受診・通院・入退院の対応

- ・単独通院出来ない方や、新型コロナ対策で公共交通機関を使用できない方の通院送迎を行った。(相談員と調整)
- ・通院者の受診に対し新型コロナの対策として通院日の調整、リモート受診を行った。

8. 緊急時の対応

- のどづめ、転倒事故による怪我、意識障害などの事態に対し職員全員が初期対応を行えるよう努めた。
- ・「事故発生時の対応」マニュアルを各部署に配布。それを基に新規職員へ説明を行った。

月別通院状況

延人員(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
内科	施設外	6	6	4	4	8	7	7	3	8	0	2	4	59
	施設内	20	0	0	23	18	22	26	19	22	21	18	24	213
精神科	施設外	2	9	3	0	0	2	4	2	4	1	1	2	30
	施設内	0	0	6	16	0	18	16	18	0	0	0	0	74
外科	施設外	3	4	5	8	4	9	5	2	2	0	1	3	46
	施設内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
皮膚科	施設外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	施設内	0	0	8	4	7	9	7	0	0	0	13	8	56
歯科	施設外	2	3	4	6	2	5	3	2	2	0	0	2	31
	施設内	5	0	23	19	26	18	23	18	18	19	19	7	195
婦人科	施設外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	施設内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
整形外科	施設外	0	1	1	1	0	2	1	0	5	1	3	0	15
	施設内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼科	施設外	2	0	2	1	1	3	1	8	1	0	0	3	22
	施設内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉科	施設外	0	0	2	3	2	1	4	2	2	1	1	1	19
	施設内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	施設外	0	0	2	5	0	4	3	0	2	0	0	2	18
	施設内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
呼吸器科	施設外	1	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	4
	施設内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受診者数	施設外	16	23	23	29	19	33	28	19	26	3	8	17	244
	施設内	25	0	37	62	51	67	72	55	40	40	50	39	538
	合計	41	23	60	91	70	100	100	74	66	43	58	56	782

Ⅲ. 食の向上と栄養管理

健康で生きがいのある毎日を送っていただくため、利用者様個々に合った安全で満足度の高い食事を提供した。嗜好品の支給方法について見直し、利用者様の喫食状況に合わせた内容で提供した。また、コロナ感染対策として食堂テーブルに飛沫ガードパネルを設置し予防に努めた。

1. 栄養の管理

身体状況・生活状況を把握し、個々の健康・栄養状況に応じた栄養管理の徹底を図った。また、生活習慣病の予防と重度化防止など、健康の維持・向上に努めた。

- ① 献立表の作成
- ② 個別栄養管理
- ③ 栄養指導

2. 特別食の対応

利用者様個々の疾病等を考慮し、特別食の対応を行った。

・マンナン食 ・エネルギー制限食 ・減塩食 ・アレルギー等による代替食

3. 豊かな食事の提供と給食環境の改善

毎日の食事が最大の楽しみとなるよう、季節感のある料理や変化に富む献立に努め、安全で満足度の高い食事を提供した。

- ① 食事環境の改善
- ② 行事食、選択食、イベント食等の充実

ア. 選択食

回数	実施日	選択食の内容
1	4月15日	麻婆豆腐丼：ベーコンレタスバーガー、チーズケーキ：抹茶ババロア
2	7月15日	ホットドッグ：ジャージャー麺、白玉黒蜜きなこ：バニラアイスの苺ソースかけ
3	11月18日	かき揚げ丼：すき焼き丼、キャラメルケーキ：お汁粉
4	2月17日	肉じゃが：シーフードフライ、あずきプリン：かぼちゃのタルト

イ. バイキング食

・コロナ禍により例年のスタイルではなく、料理は簡易食器に小分けに盛り付けし、予めお膳にセットした状態で配膳した。おかわりについては、利用者様は着席したままで、職員がオーダー分の料理を座席まで運び、感染対策に配慮した形で実施した。

・実施日 3月10日

・献立 白飯、帆立とあさりのカレー、醤油ラーメン、クロワッサン、チャーシュー、黒酢酢豚、ガーリックシュリンプ、ミニグラタン、ハムのマリネ、チョコクレープ、ミニおやき、お茶

ウ. お弁当献立

・実施日 ①6月17日 ②10月14日

エ. 誕生会

・誕生月の利用者様から料理の希望を聞き、一番希望の多かった料理を毎月の誕生会に提供した。

オ. イベント食

◎開設記念日

・開設記念日に寿司、焼き鳥、飲み物などの献立で昼食を楽しんでもらった。

◎夏祭り

・夏祭りには、焼きそば、お好み焼き、フランクフルト、カキ氷など出店風の献立で昼食を楽しんでもらった。

◎あけぼのオータムフェスト

- ・『北海道・札幌の食』をテーマとした秋の味覚の祭典オータムフェストにちなみ、普段なかなか口にする事のない道内各地の旬の食材や、ご当地グルメを味わってもらった。料理や、食材の紹介はもちろん、その土地の概要、名産や特産についても写真付きで紹介した。

- ・実施日 ①9月15日 ②9月16日
- ・献立 ①御飯、釧路ザンタレ、ごまだれ冷奴、パイン
②富良野オムカレー、シーザーサラダ、タンダロン

カ. クリスマス会食、年越し会食、おせち料理

◎クリスマス会食

- ・クリスマス会食では、ケチャップライス、ローストチキン、グラタンやテリーヌ、海老フライ、サーモンマリネなどクリスマスらしい内容でのオードブルやケーキを楽しんでもらった。

◎年越し会食

- ・12月30日の年越し会食では、お弁当箱を用いて、えびと銀杏のおこわ、ザンギ、海老、旨煮、数の子、金平牛蒡、昆布巻き、栗きんとん、練り切りなど正月らしい料理を楽しんでもらった。
- ・大晦日の夕食では、親子丼と年越しそばを楽しんでもらった。

◎おせち料理

- ・元旦には朝食に伊達巻や黒豆などおせち五点盛り、昼食にはお赤飯や茶わん蒸し、夕食に刺身盛り合わせを楽しんでもらった。

キ. 季節食

- ・季節に合わせて、日本の文化に触れる行事食を提供した。

土用の丑の日 (うな井)	餅つき (雑煮)	冬至 (冬至南瓜)
七草 (七草粥)	節分 (いなりとりの巻き)	ひな祭り (ちらし寿司、甘酒)

ク. 祝日食

- ・祝日には、季節や家庭の温かみを感じてもらうため行事食を提供した。

昭和の日 (生ちらし)	憲法記念日 (鮭寿司)	みどりの日 (筍ごはん)
子供の日 (刺身)	海の日 (ちらし寿司)	スポーツの日 (鶏めし)
山の日 (いなりとりの巻き)	敬老の日 (赤飯、刺身)	秋分の日 (三色おはぎ)
文化の日 (鶏めし)	勤労感謝の日 (鮭の親子丼)	成人の日 (ちらし寿司)
建国記念の日 (山菜おこわ)	天皇誕生日 (鉄火丼)	春分の日 (三色おはぎ)

③ 利用者様の意見反映

- ・給食会議において、居室ごとに取りまとめた食事に対する意見、要望を利用者様の代表から聞き、給食に反映させた。

- ・嗜好調査の実施 調査時期 令和3年1月
調査対象 利用者様 71名

④ 嗜好品支給形態の見直し

- ・個々の身体状況、嚥食能力によりおやつの内容を2本化し、嚥下困難な方にも安心して食べていただけるよう努めた。(原則毎週木曜日支給)

⑤ 利用者個々の状態に応じた自助食器、自助具の提供

- ・個々の状態に合わせて、自助食器・自助具を提供した。
- ・自助食器・自助具を使用することで、安定した栄養摂取量の確保と自力摂取をサポートした。

4. 非常時の対応

① 非常食の備蓄

- ・災害時に備え、3日分の非常食を備蓄した。
- ・備蓄品 御飯、スープ缶、フルーツ缶、飲料水、補助食など90名×3日
※飲料水においては実際の災害に備え、1日1人あたり2リットル程度の備蓄量を目指し段階的に増加した。
- ・非常食の試食 防災訓練の際、昼食として非常食を食した。
実施日 令和2年10月21日
内容 ドライカレー、野菜ジュース、フルーツ缶、水、クラッカー

② マニュアルの活用

- ・万が一の災害発生時に、対応マニュアルに沿い、適切かつ迅速な対応を行えるよう内容を更新した。

5. 食品衛生と調理従事者の衛生管理の徹底

- ・調理室内の除菌（1日2回 8：45、15：00に実施）
- ・調理室内の温度測定（1日2回 5：45、18：00に実施）
- ・冷蔵、冷凍庫の温度測定（1日2回 5：45、18：00に実施）
- ・水質検査の実施（1日2回 5：45、18：00に実施）
- ・原材料及び調理済み食品の検査用保存食の保存（2週間分）
- ・加熱調理済み食品の中心温度測定（加熱調理済み食品全てを測定）
- ・栄養士及び調理従事者の検便検査（月1回実施）
※検査項目の1つをO-157からEHECに変更し、より充実した内容で検査を行った。
- ・調理従事者の個人衛生管理表による健康・衛生チェック（1日1回出勤時に実施）

6. 給食単価と平均栄養所要量

① 給食単価

下記単価により給食を提供した。

給食費	1人1日	933円
-----	------	------

② 平均栄養所要量

別紙「給食状況調」による基準により給食を提供した。

給食状況調

	kcal	g	g	mg	mg	ビタミン				1人1日当たり 平均金額	食数
	エネルギー	蛋白質	脂質	カルシウム	鉄	A(μ g)	B1(mg)	B2(mg)	C(mg)		
2年4月	1,814	71.1	46.1	672	10.0	780	1.26	1.52	134	924	2,391
2年5月	1,804	70.8	45.0	689	10.0	806	1.26	1.54	138	985	2,340
2年6月	1,808	72.2	45.7	672	10.1	766	1.20	1.53	131	893	2,214
2年7月	1,807	71.2	45.5	681	10.1	827	1.27	1.48	138	909	2,293
2年8月	1,810	72.7	45.6	686	10.0	812	1.29	1.57	133	957	2,241
2年9月	1,805	70.6	44.5	674	10.2	786	1.27	1.49	129	906	2,305
2年10月	1,804	70.6	43.8	703	10.0	852	1.24	1.59	138	953	2,293
2年11月	1,812	71.1	45.2	671	10.1	779	1.26	1.54	134	926	2,152
2年12月	1,830	72.7	44.8	678	10.2	815	1.25	1.51	133	991	2,287
3年1月	1,809	73.0	45.6	683	10.1	779	1.22	1.52	128	987	2,252
3年2月	1,812	72.4	45.0	704	10.2	789	1.24	1.51	130	915	2,081
3年3月	1,819	73.6	45.5	677	10.3	790	1.25	1.54	138	860	2,419
合計	21,734	862.0	542.3	8,190	121.3	9,581	15.0	18.3	1,604	11,206	27,268
月平均 1人1日当たり	1,811	71.83	45.19	683	10.1	798	1.25	1.53	134	933	2,272

IV. 施設の安定的な経営と機能強化

1. 安定的経営に向けた取り組み

安定的な施設経営のために、最大の収入財源である利用人員の充足を目指した。しかしながら今年度においても十分な人員確保には至らず、状況を改善することが出来なかった。

① 定員の充足

・継続的な利用者様の確保（年間平均在籍人員実績 77.9名、月別人員は別表1を参照）

② 救護施設の周知活動

・札幌市内及び近郊の福祉事務所、病院相談窓口等へのPR活動を行った。
 ・札幌市内保護課ケースワーカー向けの施設見学会を予定していたが感染防止の観点から中止した。

2. 運営体制の強化

① マニュアル等の整備

・現存するマニュアルの把握を行ったが、更新等による整備や新規マニュアルの作成には至らず課題を残した。

② 記録業務の効率化

・生活支援記録システムを活用し、医務的な記録やヒヤリハット報告書の作成など更なる活用の拡張を図った。

③ 定例会議・各種委員会活動の実施

・職員会議・給食会議・支援会議の開催：月1回
 ・人権擁護委員会の開催：感染防止の観点から縮小し、年2回の開催とした。
 ・内部研修企画委員会の開催：研修の開催を中止とした。
 ・苦情解決委員会：苦情等意見書4件
 ・救護施設サービス自己評価委員会の開催：委員会にて評価結果をレーダーチャートにまとめ、総合評価を職員会議にて報告した。
 ・ヒヤリハット委員会の開催：月1回

ヒヤリハット報告

《年間分類別事象数》

投薬	転倒・転落	食事・誤嚥	無断外出	設備	防災	外出先	外部	忘れ	勘違い	その他	合計
26	71	8	1					1		7	114

3. 職員の専門性と処遇の向上

① 職員体制と専門性の強化

・加算制度の利用：救護施設職員配置基準に基づく適正な職員配置に加え、加算制度を利用した職員配置を行った。

（介護職員1名、看護師1名）

・外部団体研修会への参加：コロナ感染防止の観点から各種研修会への参加を全面的に中止とした。
 ・施設内研修の実施

回数	とき	ところ	研修内容	講師	参加者
第1回	9/23	食堂	コロナウイルス感染防止対策について	施設長	20名

② 職員処遇の向上

- ・労働安全衛生法に基づく職員健康診断を実施した。(全職員11月、夜勤業務従事者のみ5月)
- ・福祉医療機構・北海道民間社会福祉事業職員共済会・福利厚生センターに加入し職員が働きやすい環境の整備に努めた。
- ・職員親睦会において慶弔費の給付等を実施した。

4. 苦情解決に向けた取り組み

- ・苦情受付件数 4件～介護職員に対する不満について

5. 地域との連携

- ・施設行事への参加呼びかけ(感染防止の観点から施設行事への外部の方への呼びかけを中止した)
- ・会議室の開放(感染防止の観点から開放を中止した)
- ・福祉除雪事業への参加(当施設出動実績：2回)

6. 広報活動の充実と情報公開の取り組み

① 広報活動の充実

- ・ホームページの定期的な更新
- ・広報誌「みちしば」の発行
- ・発行部数 110部
- ・配布先 ご家族・関係機関
- ・発行内容

号 数	発行日	発 行 内 容
156号	4月15日	バイキング食、感染予防対策、年間ダイアリー等、
157号	10月15日	開設記念 夏祭り、買い物レク、オータムフェスト 等

② 情報公開

- ・ホームページにおいて施設概要、事業報告書及び決算収支状況を開示した。
- ・定期的に更新し日常生活等をお伝えした。

V. 施設の安全管理と環境整備

1. 施設の防災管理

- ・日頃より施設周辺の可燃物の整理整頓や自治救出体制の見直しを行う等防火活動に努めた。しかし、「組織的な体制を再整備するための全体的な消防計画の見直しの実施には至らず課題を残してしまった。

- ・消防法に基づく総合訓練の実施

実施月日	想定	訓練内容	参加者
8月18日	夜間	検証部分訓練（消火訓練・避難訓練）	3名
10月21日	夜間	部分訓練（消火訓練・避難訓練）	3名

- ・避難訓練に参加した職員を対象として消防設備の使用法やスプリンクラー設備について研修を実施した。
- ・緊急時の職員連絡体制をより定着させるため「らくらく連絡網」を活用した連絡訓練を実施した。

2. 施設設備の修繕・保守・点検

各種機器の維持管理及び経年変化による建物の劣化に伴う各所修繕を実施した。

今年度においてはより生活し易い生活空間を整備するため1階居室の洋室化や2階の居室でプライバシーを確保するための改修工事を実施した。また経年劣化により業務用大型食器洗浄機を交換した。設備の定例保守は以下のとおり行った。

- ・消防用設備の点検（年2回～専門業者／自主点検：毎月）
- ・自家用電気工作物（キュービクル）の点検（毎月～専門業者）
- ・エレベータの保守点検（毎月～専門業者）
- ・温水ボイラーの保守点検（4月・11月～専門業者）
- ・浴槽水の分析検査（レジオネラ属菌検査）（9月～臨床検査業者）
- ・受水槽・貯湯槽の清掃保守及び水質検査（2月～専門業者）
- ・機械警備の保守点検（毎月～専門業者）

3. 施設内の清掃・美化

居住環境の清潔保持と施設内感染の予防に努めた。

- ・館内床美装（食堂：年2回その他廊下等：年2回）
- ・布団丸洗い及び乾燥殺菌（丸洗い4月、乾燥殺菌10月）
- ・シーツ・ホープの交換（月2回）
- ・居室内カーペット部分（汚損箇所）貼り替え（年1回）
- ・月例清掃（毎月～職員と利用者の協働清掃）
- ・館内除菌（インフルエンザ、ノロウイルス対策）の実施（毎日～職員が実施）
- ・コロナウイルス対策により必要物品（マスク、消毒液、ゴーグル等）を調達した

<別表 1>

入所状況

(令和3年3月31日現在)

入退所状況調

(人)

月	R2.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R3.1	2	3	平均
月初措置人員数	83	81	77	78	75	77	79	77	78	76	77	77	77.9
	(3)	(1)	(1)	0	0	(1)	(2)	0	0	0	(1)	0	
自由契約者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	83	81	77	78	75	77	79	77	78	76	77	77	77.9

※()はホームレス緊急入所による措置人員数を再掲

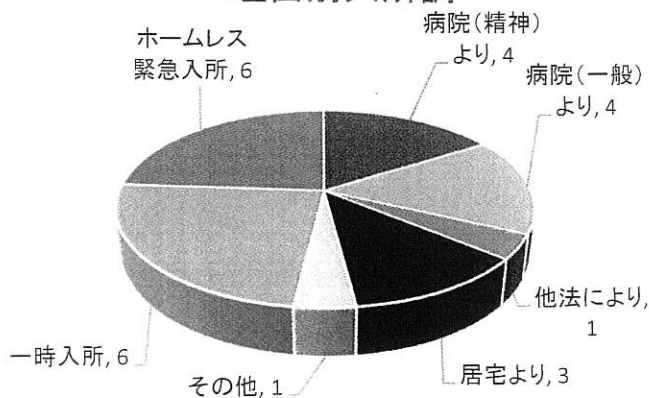
(人)

月	R2.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R3.1	2	3	合計	
入所	病院(精神)より										2	2	4	
	病院(一般)より			1			1		1			1	4	
	他法により						1						1	
	居宅より		1				1	1					3	
	その他						1						1	
	一時入所(一般入所前の体験的入所は除く)				1		1			2			2	6
	ホームレス緊急入所	1				1	1				1		2	6
	合計	1	1	1	1	1	4	3		3	1	2	7	25

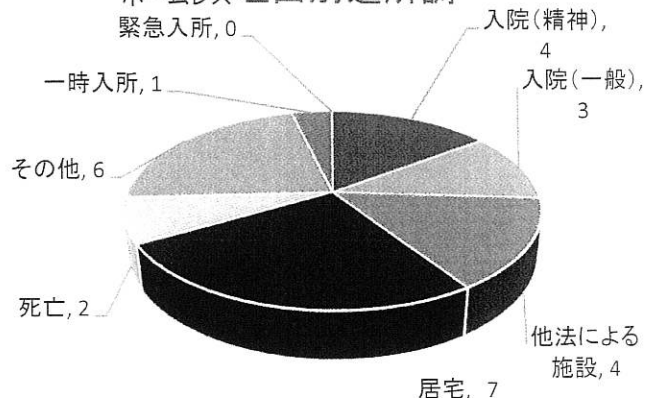
(人)

月	R2.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R3.1	2	3	合計	
退所	入院(精神)				1					1	2		4	
	入院(一般)		1		1				1				3	
	他法による施設						2	1			1		4	
	居宅	3	1	1			1		1				7	
	死亡						1			1			2	
	その他		3		1			1			1		6	
	一時入所(一般入所前の体験的入所は除く)												1	1
	ホームレス緊急入所													
合計	3	5	1	3		1	4	1	3	2	3	1	27	

理由別入所調



ホームレス理由別退所調



年齢別調

(人)

年齢	20~29	30~39	40~49	50~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80以上	合計
男		1	1	8	7	8	7	6	4	42
女		1		4	6	6	7	4	11	39
計		2	1	12	13	14	14	10	15	81

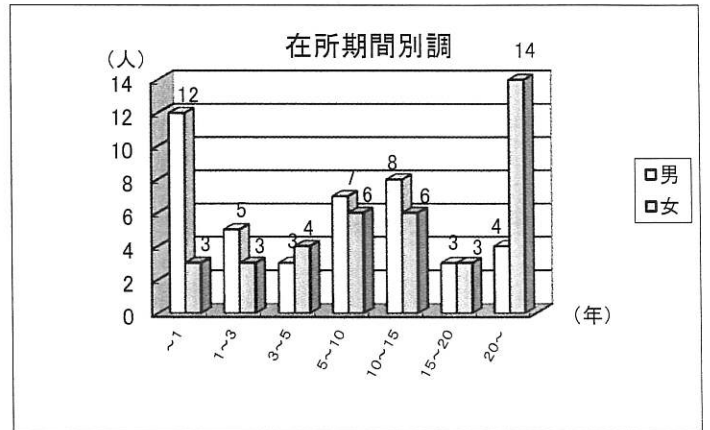
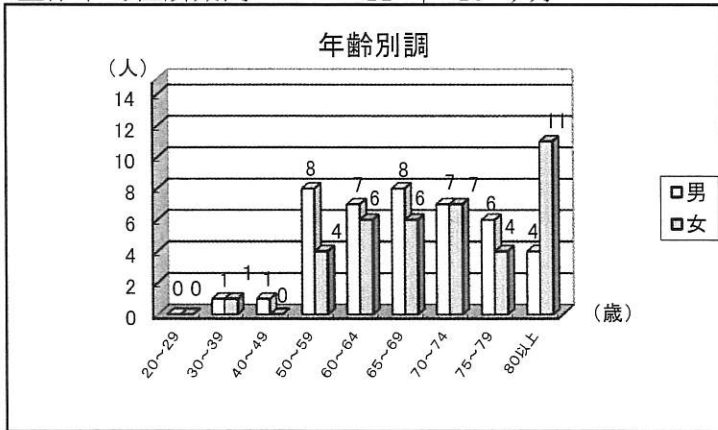
最少年齢 男子 31歳 最高年齢 男子 81歳 平均年齢 男子 66.0歳
 女子 32歳 女子 89歳 女子 71.7歳
 全体平均年齢 68.6歳

在所期間別調

(人)

	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上	合計
男	12	5	3	7	8	3	4	42
女	3	3	4	6	6	3	14	39
計	15	8	7	13	14	6	18	81

最短期間 男子 0年 0ヶ月 最長期間 男子 53年 2ヶ月
 女子 0年 0ヶ月 女子 33年 8ヶ月
 平均在所期間 男子 9年 1ヶ月
 女子 15年 6ヶ月
 全体平均在所期間 11年 10ヶ月

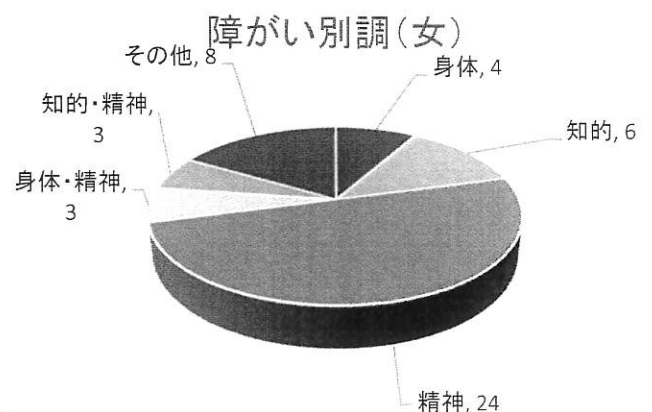
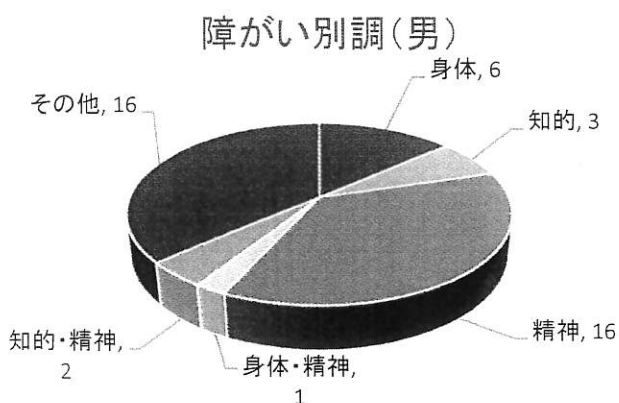


障がい別調

※判断は手帳の所持による

(人)

	身体	知的	精神	身体・知的	身体・精神	知的・精神	身体・知的・精神	その他	合計
男	6	1	16	0	1	2	0	16	42
女	1	3	21	0	3	3	0	8	39
計	7	4	37	0	4	5	0	24	81



障害者手帳保持調

(人)

身体障害者手帳	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	合 計
男	2		1	3		1	7
女		1		1	1	1	4
計	2	1	1	4	1	2	11

精神障害者保健福祉手帳	1 級	2 級	3 級	合 計
男		19		19
女	3	23	1	27
計	1	42	1	46

療 育 手 帳	A	B	B-	合 計
男		2	1	3
女	3	3		6
計	3	5	1	9

ADL状況調

(人)

区 分	歩 行			食 事			排 泄			入 浴			着 衣			
	自 力 歩 行	補 助 具 使 用	車 椅 子 使 用	歩 行 不 能	自 分 で 可 能	一 部 介 助	全 介 助	自 分 で 可 能	一 部 介 助	全 介 助	自 分 で 可 能	一 部 介 助	全 介 助	自 分 で 可 能	一 部 介 助	全 介 助
実数	59	11	11		48	33		52	24	5	49	23	9	61	15	5

受給年金調

(人)

	国民年金				厚生年金			障 基 老 厚	そ の 他	合 計
	障 害 基 礎	老 齢 基 礎	障 害 (旧法)	老 齢 (旧法)	障 害	老 齢	遺 族			
男	12	1				11		1	5	30
女	18	5	1		1	6	3		3	37
計	30	6	1		1	17	3	1	8	67

実施機関別入所人員調

(人)

各 市 別 人 員				各 振 興 局 別 人 員			
実 施 機 関 名	男	女	計	実 施 機 関 名	男	女	計
札 幌 市	22	27	49	空知総合振興局	2		2
小 樽 市	1		1	上川総合振興局	1		1
北 見 市	2	1	3	根室振興局	1		1
江 別 市		1	1	オホーツク総合振興局	2		2
三 笠 市	5	4	9	十勝総合振興局	1	1	2
根 室 市		1	1	胆振総合振興局	1		1
北 広 島 市		1	1	後志総合振興局	1		1
岩 見 沢 市	1		1	釧路総合振興局		1	1
砂 川 市	1		1				
登 別 市		1	1				
苫 小 牧 市		1	1				
帯 広 市	1		1				
小 計	33	37	70	小 計	9	2	11
				合 計	42	39	81

<別表2>

職員配置状況

令和2年4月1日現在

職 種		施 設 長	事 務 員	主 任 指 導 員	指 導 員	介 護 職 員	介 助 員	看 護 師	栄 養 士	調 理 員 等	(ほ 巡 視 員 等 か	医 師	合 計
定 数		1	2	1		15	1	1	1	4(1)		(1)	26(2)
現 在 員	正 規 職 員	1	2	1	1	15	1	2	1	4			28
	契 約 職 員					(3)				(4)	(6)		(13)
	嘱 託 員											(2)	(2)